

第2回 サイバーポート検討WG（港湾・貿易手続）議事録

【日 時】 平成31年3月15日（金）15:30～17:00

【場 所】 中央合同庁舎第2号館低層階1階 共用会議室3A・3B

【議事内容】

- (1) WGにおける検討事項
- (2) 実態調査の整理状況の報告
- (3) 基盤構築に係る基本方針

事務局である港湾局から(1)～(3)の議題について続けて資料説明を行い、WGにおける検討事項、実態調査の整理状況、基盤構築に係る基本方針について確認した。

各委員からのコメント及び回答は以下のとおり。

〈A 委員〉システム構築が完成した場合、受益者は誰になるのかという議論を深める必要がある。また、NACCSの情報とのダブリや抜けがないよう留意して欲しい。

〈事務局〉データ連携基盤の目的は入力作業の省力化とデータの利活用。有益な情報であれば利用者全てに使い勝手の良いものになっていると思う。そのうえで、NACCSとの連携は重要であると認識している。

〈B 委員〉資料2の10ページの整理の中で倉庫業者があまり出てこないが、これは今後更に整理するというイメージか。

〈事務局〉パワーポイント資料は、書面の都合上、ブッキングに係る部分のみを抜粋している。詳細は別途整理している。

〈C 委員〉例えば輸出申告手続きや輸出許可通知については、約99%がNACCSにより電子化されている一方で、関係者間の情報伝達についてはまだ電子化がされていないというのが資料2の13ページから見とれる。なお、「輸出許可通知」と「輸出許可の報告」の違いは何か。

〈A 委員〉荷主への報告ということであろう。荷主はあまり直接的にNACCSに連携していないので、電子化の割合が低くなる。

〈D 委員〉資料の中で言う「フォワーダー」の定義は何か。

〈事務局〉回収調査票を機械的に整理しており、回答者の認識に基づいたもの

と認識している。

〈E 委員〉特に輸出において、電子化が進んでいないことに起因する確認作業は業務の負担となっている。これが電子化されれば間違っただ情報は入ってこなくなり、仮に間違いがあってもその責任が明確になるので期待している。逆に輸入では情報の川上である船社から電子データが流れてくるので、相対的に電子化率が高くなる。

質問だが、データ連携基盤上でデータを連携させていく際のキーとなる情報の考え方はどのようなものか。というのも、荷主から情報がスタートするブッキングの時点ではコンテナナンバー、B/L ナンバーは存在していない。

〈事務局〉今回の実態調査から、どの情報がどのタイミングで扱われるのか、粗方把握できたため、それを踏まえてご指摘の点も今後検討していきたい。

〈F 委員〉多くの関係者が関わるシステムでは、データを入力する者と作業が合理化される者が異なるケースが多い。関係者ごとにどのようなメリット・デメリットがあるのか整理して頂きたい。参加者が限られるといった中途半端な内容では、メリットは出てきづらいだろう。多くの関係者が参加するような仕掛けも必要。

〈事務局〉受益の関係に関してはしっかりと検討したい。システムによる効率化の評価のためにも、より多くのデータをとりながら進めていきたい。関係各位からもご意見を頂きながら、全員が参加できるようなシステムにしていきたい。

〈G 委員〉資料1で平成32年末までに基盤を構築、そこから利用促進を図るとされているが、利用促進はもっと早く進めて頂きたい。特に荷主は大規模な事業者から小規模な事業者まで非常に裾野が広い。官民で連携しながら幅広い啓発活動が必要。

また、港湾関連データ連携基盤と絡めて物流に関する統計情報が取れるよう検討して頂きたい。

〈事務局〉関係事業者が参加するシステムとするための取り組みは必要。システムの全貌が見えてきた時点で取り組んでいきたいのももう少し時間が欲しい。統計情報に関しては、理論的には関係者全員が参加すれば出来るはず。そこを見据えながら進めていきたい。

〈H 委員〉データ連携基盤の効果については、利用者やコンサルタント会社がモニタリングしてみることも考えられるか。また、構築されるプラッ

トフォームは、民間企業が利用勝手を見ながらアプリ開発などの新ビジネスが展開できる「開いた世界」になるのか、それとも「閉じた世界」になるのか。

〈事務局〉我々としてはデータを皆さまに利活用して頂きたいという思い。新しいサービスを思いつくような方にも是非使って頂きたい。

〈E 委員〉コンテナターミナルの現場ではキャッシュで決済する場面も多い。今回の検討の中でキャッシュレスについても考えられるか。

〈事務局〉現金決済の必要な場面が物流円滑化の阻害要因の一つとなっていることは理解している。今回の基盤の中でそれをやるのが良いのか、それとも外部の基盤との連携の中でやるのが良いのか、いずれにせよ港湾物流の効率化が図られるようにしていきたい。

〈I 委員〉設計段階の現時点でなるべく情報を提供頂いたり、こういうことも調べるべきだという話を出していただくことが重要。資料をなるべく充実させていきたいと考えており、皆さんと協力して進めたい。

〈座長〉皆さまとともに作り込んでいくシステムになると良い。今後も様々なご注文はもちろん、取引情報やドキュメント情報など、本日までの検討で抜けや不足があれば、何でも良いのでご意見をお寄せ頂きたい。

〈事務局〉アンケート調査の内容は引き続き精査するとともに、今後の検討項目については順次進めて参りたい。

(4) 今後のスケジュール

本日のWGの内容は、5月開催予定の推進委員会で報告する。次回WGについては6月上旬を目途に調整する。